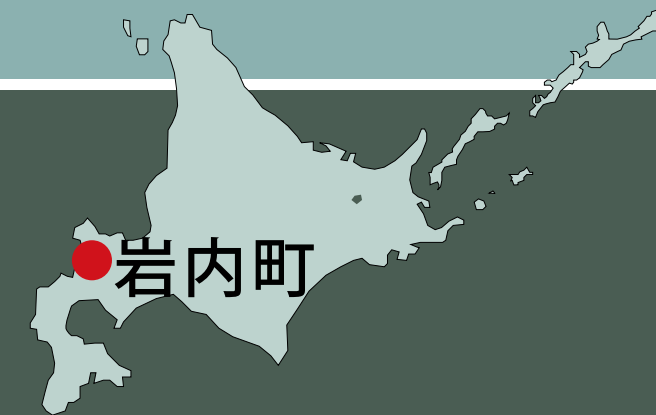


含翠園 (岩内町)



町の繁栄と文化の厚みを今に伝える豪商庭園

ライトアップで浮かび上がる修復された数寄屋風の建物

岩内神社参道沿いに位置する含翠園は、初代岩内町長を務めた豪商・梅澤市太郎が 1904(明治37)年から1914(大正3)年ごろにかけ、25万円(現在の約9億5千万円)を投じた日本庭園(庭師小林某)と、岩内神社の現在地遷宮年(1920年)に建設の数寄屋風建物(大工丸山某)とで構成される。「含翠園」は俳人巖谷小波により 1921(大正10)年に命名された。造園以来半ば公園的に開放され、1954(昭和29)年の岩内大火の被災も免れ、1972(昭和47)年の所有者変更後も観桜や観楓の場として親しまれてきた。2001(平成13)年に町に寄付され、2015(平成27)年に都市公園として供用開始、2019(令和1)年改修に着手し、2024(令和6)年完了した。池、築山、中島など、往時の姿をよく遺す日本庭園で、園内のヤチダモは造園当時のシンボリック的存在である。

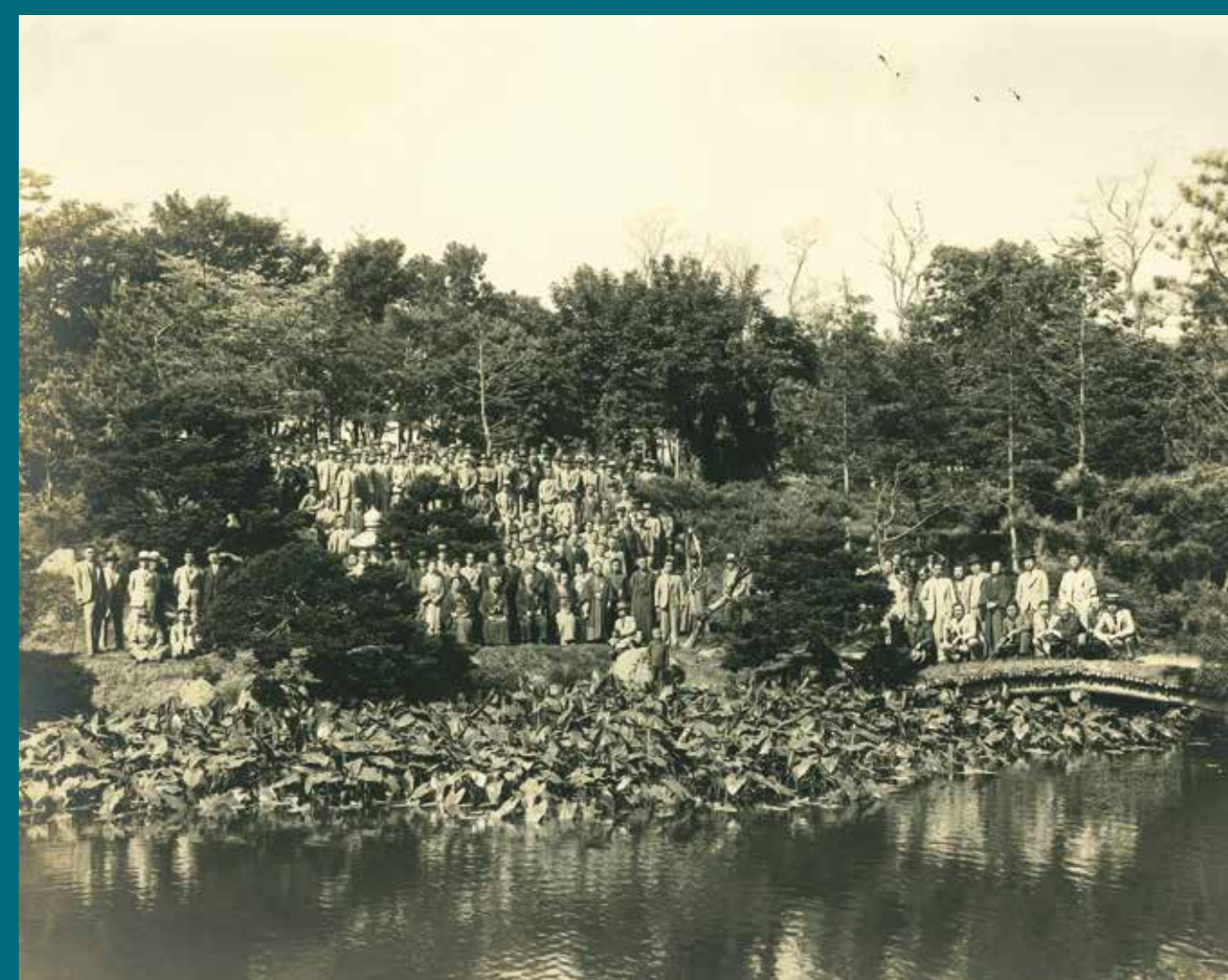
概 要

名 称	含翠園
所 在 地	岩内郡岩内町字高台315番地 4
管 理 者	岩内町
規 模	約7,800㎡
種 別 等	庭園(都市公園：風致公園)
整 備 年	1904(明治37)年頃から
開 設 年	1914(大正3)年庭園完成、1920(大正9)年座敷完成
告 示 年	2015(平成27)年都市公園供用開始告示

2001(平成13)年から数回にわたる寄付等を経て、現在は岩内町の管理となっている。



往時の姿を今に留める日本庭園



当時の有志が集めた謝恩会の様子(1937(昭和12)年撮影)